

# 第 1 5 回総務経済常任委員会会議記録

開 閉 会 日 時	令和 4 年 1 月 2 0 日 (木曜)		1 3 時 3 0 分 開会
	休憩 14:01-14:02、14:26-14:28、14:40-14:55、16:21-16:30、 17:19-17:20、17:43-18:04		
			1 8 時 0 6 分 閉会
	休憩時間：0 時間 4 9 分		会議時間：3 時間 4 7 分
会議場所	役場 3 階 委員会室		
出席委員 氏 名	委員長 鈴木 健充	委員 中村 和宏	
	副委員長 中田智恵子	委員 寺町 平一	
	委員 梶澤 幸治	委員 広瀬 重雄	
	委員 立川 美穂		議長 早苗 豊
説明員	環境土木課長 橋本直樹	工業労政係長 安田久美	
	同課長補佐 齋藤和也	都市経営課長補佐 剣持和裕	
	商工労政課長 仲野裕司	同都市経営係長 齋藤 錦	
	同課長補佐 中村宗紀	魅力創造課参事 小林徳昭	
参考人			
欠席委員 氏 名			
事務局職員	総務係長 佐藤 史彦	総務係主査 上田瑞紀	

『会議に付した事件と会議結果など』

## 1 開 会

委員長が開会を告げ、事務局から本日の委員会の日程を説明する。

## 2 議 件

### (1) 調査事項

- ア 合同納骨塚について 資料 1-1 資料 1-2
- イ 企業支援・雇用促進施策等の取組状況について 資料 2-1 資料 2-2
- ウ 地域集会施設再整備について 資料 3-1 資料 3-2 資料 3-3
- エ 新嵐山スカイパークについて 資料 4-1 資料 4-2
- オ 1 2 月定例会議の振り返りについて 当日資料 5

ア 合同納骨塚について 資料 1-1 資料 1-2

- ・環境土木課長：事業概要説明。資料説明は担当課長補佐からの旨説明。
- ・課長補佐：資料説明＜合同納骨塚（合葬墓）に関するアンケート案の説明＞  
公式 LINE アカウントの活用も想定。性別については配慮していく。2月中旬を目途に回答期限としていく。
- ・委員長：意見・質疑はないか？

- ・立川委員：LINE はアンケート送付者以外の意見を聞くことが目的か。
- ・課長補佐：その通り。
- ・立川委員：障がいを持つ世帯も悩みがあると思うが、個別の聴取は考えていないのか。
- ・課長補佐：担当部局と検討していきたい。
- ・梶澤委員：管内自治体も始まる場所があり、特に50代以上ではニーズも高いと感じている。範囲設定の根拠は。
- ・課長補佐：広く意見を聞くべきとの意見もあり、若い世代でも家族を亡くされた方がいることを踏まえて設定したもの。
- ・梶澤委員：「特に何も考えていない」という選択肢があるが、必要ないのではないか。
- ・課長補佐：墓の管理は個人というケースは稀であり、家族と相談しながら回答いただけると考えている。
- ・梶澤委員：20代は今はいらないという考えもある。配慮すべきではないか。
- ・課長補佐：将来に向けて考えていきたいなどの項目を増やすことも検討する。
- ・梶澤委員：共同墓地には2つ定義があり、合葬墓の意味もある。わかりやすくすべきではないか。
- ・課長補佐：わかりやすくしていく。
- ・梶澤委員：調査結果について、後期計画に反映していくのか。
- ・課長補佐：後期計画にも反映していく。
- ・寺町委員：アンケート数が少ないのではないか。50代以上の対象を増やすべきではないか。
- ・課長補佐：管理する当事者世代として対象は増えていくが、回答の傾向が偏っていく可能性もあり、LINE は幅広い年代で使われていることから、現状で進めたい。
- ・寺町委員：LINE は若い世代のほうが得意。
- ・課長補佐：50代でLINE を使う方も多数いると考えている。
- ・寺町委員：合同納骨塚の説明も配布するのか。
- ・課長補佐：今回説明した参考資料も添付する。LINE にも説明書きを加える。
- ・委員長：他に意見・質疑はないか？
- ・(意見・質疑なし)
- ・委員長：以上で、調査事項「ア」を終了する。

イ 企業支援・雇用促進施策等の取組状況について 資料 2-1 資料 2-2

- ・商工労政課長：事業概要説明。資料説明は担当係長からの旨を告げる。
- ・工業労政係長：資料説明＜企業訪問ヒアリング、主要な施策の現状、今後の方向性及び芽室町サポートメニューの説明＞
- ・委員長：意見・質疑はないか？
- ・梶澤委員：ローカスは期待するものであるが、150名が22社に行ったのか。
- ・工業労政係長：企業、生徒が登録し、AIにより3社とマッチングし、企業のキャパも踏まえて主催者が調整する。
- ・梶澤委員：取り組みが学校単位ではなく、町外に通う町内の高校生に広げられる可能

性はあるか。

- ・工業労政係長：授業の一環であり、新たなカリキュラムとなる総合的な探求の時間で  
の活用を推進しているため、学校単位となる。管内では4校が参加中。
- ・梶澤委員：主催者が学校と共同して実施しているのか。
- ・工業労政係長：学校にプログラムを提案し、採用された場合に事業として実施され  
る。
- ・梶澤委員：ジモト大学の取り組みにならないかという発想で検討できないか。
- ・工業労政係長：主催者に可能性として相談していきたい。
- ・中村委員：芽室町ハローワークの数字はどのように評価しているか。
- ・工業労政係長：高い成果と考えている。比較は難しいが、地方版ハローワークとして  
の評価は高いと考えられる。
- ・中村委員：多くの世代が求職しているというとらえ方でいいか。
- ・工業労政係長：求職者は幅広い年代で存在する。
- ・中田委員：女性の求職割合が高いと思うが、コロナの影響などがあるのか。
- ・工業労政係長：女性はパート、アルバイトを求める方が多い。コロナで、ということ  
は聞いていない。
- ・中田委員：ニーズが合わない場合もあるか。
- ・工業労政係長：求職登録時にニーズは把握しており、しっかりと希望を聞き取ってマ  
ッチングを行っているのも特徴。相談できる環境は整っている。
- ・中田委員：資格の支援などは考えているか。
- ・工業労政係長：各担当課と連携していく。
- ・委員長：他に意見・質疑はないか？
- ・(意見・質疑なし)
- ・委員長：以上で、調査事項「イ」を終了する。

報告事項追加 新型コロナウイルス感染症に関する事業影響調査・要望調査報告書に  
ついて

- ・商工労政課からの報告を決定し、内容について商工労政課長補佐から説明を受ける。

ウ 地域集会施設再整備について 資料 3-1 資料 3-2 資料 3-3

- ・都市経営課長補佐：概要説明。資料説明は担当係長からの旨を告げる。
- ・都市経営係長：資料説明（「全体スケジュール」、「整備経過」、「施設規模基準」、「令  
和4年度再整備施設」、「事業手法」の説明）
- ・委員長：意見・質疑はないか？
- ・立川委員：再整備の手法について、保育所改修はほかにもあるが、空間構造の検証は  
必要なかったのか。
- ・都市経営係長：3か所が保育所改修。新生、北伏古は減築、上伏古は増築となる点が  
異なる。実績がない中での検討となり、北大の協力を得たもの。
- ・立川委員：複合化、縮減が基準となる中、上伏古は増加となる。体育館も含めてい  
るが、他の地域は高齢者の健康増進としての施設活用がなかったのか。要望もなか

ったのか。上伏古だけ異なるという疑問があるが。

- ・都市経営係長：現在の活動を基準として地域協議を行っている。大規模施設を望まれることはあるが、新しい機能を求められる場合は整備計画と異なり難しい。
- ・立川委員：地域の人口推計は考慮されているのか。
- ・都市経営係長：地域ごとの推計はしていない。町の総合計画等による人口減少、財政状況も考慮して面積縮減などを検討している。
- ・立川委員：地域の集会施設であり、特色として地域住民が利用する施設。地域の人口推計などの視点はないということによいか。
- ・都市経営係長：全体的な計画に基づいた人口推計のみ。意見交換の中ではそのような話も出てくる。防災面などの考え方も含め、地域と今後の在り方を踏まえて協議している。
- ・梶澤委員：これまでは規模の設定をしてから地域協議により進めているが、大きな空間ありきの上伏古は違うのではないか。再整備計画との整合性はとれているのか。他の地域と上伏古との違いは何か。
- ・都市経営係長：基準をもとに規模を設定する協議手法は同じであり、面積を確定させたもの。地域体育館があり、その分を加味している部分が違う。地域体育館を持つ地域は3か所あるが、他の2か所は地域協議の中で使用状況も踏まえて含めないことで協議が進んだもの。上伏古は利用状況、頻度などから整備計画の趣旨が外れるものではないという協議経過を経て算入したもの。
- ・梶澤委員：聞き取りの中で再整備を進めていることは理解する。欲しいけどない地域もある。将来人口の視点は無視できない。地域によっては農事組合会館などを利用するところもあり、使用頻度も変わってくる。増築を前提に進めたことが問題ではないか。計画との整合は取れているか。
- ・都市経営係長：新たな施設を作らないという前提は町全体の人口減少を踏まえたもの。利用状況や使われ方も踏まえ協議しており、整備計画をもとに進めたと認識している。
- ・梶澤委員：協議の開始時点で人口推計、財政状況を説明したうえで進めるべき。どういう機能が必要ですかから始まった上伏古はほかと違う。地域体育館の50%を面積参入することは計画に記載があるのか。
- ・都市経営係長：計画に基づき既存施設277㎡の圧縮というところから協議を始めていることは他の地域と変わらない。その後の協議の中で地域体育館の件も話し合わせ、その分も加味して決定したもの。複合しながら圧縮もかけ、機能が損なわれない範囲で50%として進めている。
- ・梶澤委員：大きな空間の要望というのはどの程度のものか。
- ・都市経営係長：年に数回100人規模という要望。体を動かす施設、ミニバレーなどの要望があったが、使用頻度等から難しいものは説明し、この形となった。
- ・梶澤委員：このまま進めると、今後、市街地で整備する際に難しい状況が生じる懸念がある。上伏古には体育館があったからという状況がある。
- ・都市経営係長：公共施設等総合管理計画があるため、新たな専用施設を作らないことが前提。そのうえで地域協議に入る考え方は変わらない。

- ・梶澤委員：他の施設でも整備計画で想定する機能は備えていると思う。施設ごとにかい離があると、他の地域から何か要望が出てこないか。中伏古はどうか。
- ・都市経営係長：中伏古の協議は規模を決めるところまで進んでいる。
- ・梶澤委員：今後の協議で多く要望が出てこないか。
- ・都市経営係長：規模を決めたので、今後実行計画に位置づけ協議を進める。
- ・立川委員：地域体育館は誰が利用してもかまわない施設か。
- ・都市経営係長：運営を地域に依頼しており、管理者の了解をもらうことになる。
- ・立川委員：町として制限はあるか。
- ・都市経営係長：特にない。
- ・立川委員：地域に施設がない場合、町外、道外の方も上伏古の施設を利用することが可能であるか。利益の出る施設とできるのか。そのような地域協議はしているか。
- ・都市経営係長：条例の位置づけとして地域限定の施設ではない。話し合いの中では南小校区の集まりが持てるなどの意見もあった。防災施設としての運用もできる可能性があるなどの協議はしている。
- ・広瀬委員：計画どおりに進めているとは思いますが、地域の人口推計を行っていないという点について、考慮せずに進めると疑問が生じてくる。財政の視点も重要。地域の要望ばかり聞けないのは町全体の財政の課題があるからであるという点を、地域に理解いただいて進めることが重要。
- ・都市経営係長：地域の人口が少ないことから、地区のトレンドが出せないため町全体の推計を使用しているのが現状。それを踏まえて公共施設等総合管理計画に基づき他の上伏古の施設は縮減していく方針。
- ・広瀬委員：計画に反対ではない。議会としては、上伏古の意見だけでなく、町全体の合意も必要となる。これまで整備してきた地区の考え方の説明もあったが、他地区の住民に理解が得られるかという懸念がある。特殊な事情でワークショップを実施したという経過を、今後整備する地区でもやって欲しいとなったときにどうするか。
- ・都市経営係長：今後についてもこれまでと同様の入り口から協議を進める。縮減が基本という考えは変わらない。
- ・広瀬委員：面積が大きくなれば事業費も増加する。どのように抑えていけるか。モダンなつくりであるが、維持費も増える可能性がある。その部分での削減などは考えているか。
- ・都市経営係長：前回の資料のとおり建築ということではなく、上限を決定した中で、事業者と協議しながら圧縮していく。
- ・中田委員：基本計画からの変更もあるとのことだが、設計に向けたスケジュールはどうなるか。
- ・都市経営係長：事業予算は2月に提案したい。3月から4月頃に事業者を決定し、令和4年度中に設計、建築と考えている。
- ・梶澤委員：床の費用はどの程度。
- ・都市経営係長：学校の体育館並みになると高額になるが、通常の会議室程度とするかなど、設計者とどの部分に重点を置くかなど検討していく。

- ・梶澤委員：メンテナンスの考え方は。
- ・都市経営係長：北大からも見解を得ており、暖房の効率化など設計の中で設定していく。
- ・梶澤委員：ランニングコストは町として考えていく必要がある。空間についても考慮すべき。
- ・都市経営係長：意見を参考にさせていただく。
- ・立川委員：上伏古と中伏古で3億円の実行計画であるという理解でよいか。
- ・都市経営係長：事業規模は予算要求では実行計画に近いものと考えている。
- ・中田委員：基本計画から業者による設計変更はどの程度許していくのか。
- ・都市経営係長：地域が望むものを優先し、維持管理なども重視して考えていくため、どの程度というところまで明確にはできない。
- ・中村委員：再整備の機能を考え、叶わない要望を聞いた時に、住民との整理はできているのか。基本計画と大きく違うものが設計されても問題ないか。
- ・都市経営係長：何をしたいか0ベースからワークショップを始めている。議論の中で優先度を考えて進めており、参加した団体ごとに優先度も違う。設計の中で整理していく。
- ・中村委員：整備が終わった地域、これからの地域にもしっかりと説明ができるよう進めてもらいたい。
- ・都市経営係長：整合性を取りながら進めたい。過去の整備も踏まえて議論は行っており、使いながらの改善要望も聞きながら進めている。
- ・梶澤委員：今回はどのように議会への説明を検討しているか。
- ・都市経営係長：これまでは単年度で進めてきたが、スケジュールがタイトになるため、債務負担行為により新年度早々に進められるようにしていきたい。
- ・広瀬委員：市街地を含めて公共施設をどうするかを過去から議論している。1つの地域の施設がここまで議論になったことはない。それだけ違和感があるということ。スケジュールは示されたが、今後、議会と議論する余地はないのか。
- ・都市経営係長：庁内で検討していく。
- ・委員長：他にないか？
- ・(意見・質疑なし)
- ・委員長：以上で、調査事項「ウ」を終了する。

エ 新嵐山スカイパークについて 資料 4-1 資料 4-2

- ・魅力創造課参事：資料説明（「ウォーターガーデン整備現況調査等業務委託に基づく事業実施の方向性について」の説明）
- ・委員長：意見・質疑はないか？
- ・立川委員：調査結果から見送りはやむを得ない。代替えの子どもの施設は検討していくか。
- ・魅力創造課参事：指定管理事業者と協議のうえ、簡易的なスプリンクラーなどを設置しているが、今後、代替え案として水に親しむ施設を検討したい。
- ・立川委員：バルーンドームなどの設置はできないか。

- ・魅力創造課参事：キッズパークの提案を活用計画で行っている。日陰に置く必要があるなどの課題もあり、施設にマッチしたものを検討していきたい。
- ・委員長：他にないか？
- ・（意見・質疑なし）
- ・魅力創造課参事：資料説明（「宿舎（レストラン）のリニューアル『レストラン改修計画』について」の説明）  
委員の意見を聞きながら、令和4年度に設計を進めるかも判断していきたい。
- ・委員長：意見・質疑はないか？
- ・立川委員：調理場は分散されるのか。
- ・魅力創造課参事：その通り。2か所になる。
- ・立川委員：スタッフなどのプランは。
- ・魅力創造課参事：少人数のアルバイトの可能性もあるが、基本的には現状のスタッフで対応可能と考えている。
- ・寺町委員：大広間などにテーブルを置く方法なども考えられないか。現在のコロポックルは見晴らしもよく変更しなくてもいいのではないか。
- ・魅力創造課参事：現施設改修の検討もしたが、宿泊食提供が大前提となると、利用時間の重複などが課題となる。さらにロケーションの良い部分にしていきたい。
- ・寺町委員：リフトなど14億円ということもあるが、変更も含めて賄えるのか。
- ・魅力創造課参事：示した事業費の中で計上している。現時点の積算は5,700万円であり、計画内で対応できる。事業費を精査しながら進める。
- ・委員長：会議時間を延長する。  
（異議なし）
- ・広瀬委員：今日から議論スタートとなるが、スキー場の稼働状況を考えると、現状でも対応できているように見える。夏の稼働状況も考えると様々なコストなどは回収していけるのか。
- ・魅力創造課参事：実際には2階レストランの待ち時間が長いという課題がある。夏については営業時間の延長などで新規開拓を進めたい。客単価なども踏まえた試算では運営できると考えている。
- ・広瀬委員：いいものを作っても赤字では続けられない。町の投資であり、判断できるものをいずれ示していただきたい。
- ・魅力創造課参事：今回が初めての説明でもあり、必要な資料は今後委員会に示しながら説明していきたい。新規レストランに向けたニーズを高めながら指定管理者と検討を進めたい。
- ・広瀬委員：高齢者としてはメニューの改善に期待したいところもある。委員からの意見も踏まえて検討していただきたい。コロナ禍でバイキングをやめた施設も多い。ウィズコロナも含めた議論を進めるべきではないか。
- ・魅力創造課参事：フードコートスタイルがいいのかという考えもある。席も間引きしているところ。大広間の改修などロケーションも考慮して検討する。レストランのコストも十分考えて検討していく。
- ・梶澤委員：現地調査でも説明があったところ。町民より来訪者を優先しているという

意見もある中、町民のメリットはあるか。

- ・魅力創造課参事：地場産の価格を圧縮した提供という部分で、リーズナブルに提供していくところをメリットと考えている。
- ・梶澤委員：コロポックルのような形態を望む声もあるが、町民利用の視点はどうか考えているか。
- ・魅力創造課参事：町民が使いにくくなったという意見は承知している。施設を維持していく中でどのように利用してもらえるかを考えている。様々なニーズを整理しながら検討していきたい。
- ・梶澤委員：管理棟は駐車場から遠いが、どのように整理しているか。
- ・魅力創造課参事：除雪などをしっかりする必要はある。嵐山らしさという観点でも検討しているところ。
- ・梶澤委員：移動する方が増えることによる、パトロール隊やスキーヤーとの往来の危険は考えているか。
- ・魅力創造課参事：侵入を限定するなど考えていく。
- ・梶澤委員：関係団体などとも今後協議していくのか。
- ・魅力創造課参事：管理棟をレストランとする最終決定をしたものではない。レイアウトを考えていく。団体などとの協議も行っていく。
- ・委員長：他にないか？
- ・（意見・質疑なし）
- ・委員長：以上で、調査事項「エ」を終了する。

オ 12月定例会議の振り返りについて

当日資料5

- ・立川委員：資料説明
- ・委員長：意見・質疑はないか？
- ・委員長：1番目は高校限定の意見か。
- ・立川委員：対応できない理由は示されているが、議会の中で話し合う機会を持ちたい。議員間討議が必要。
- ・梶澤委員：1番目は振り返りとして議運に提出すればよい。
- ・委員長：そのように取り扱う。
- ・立川委員：2番目は議運に提出してもらいたい。所管委員会の判断ではあるが、意見があるということは3番目についても同様に議運で情報共有してもらいたい。
- ・鈴木委員：2番目、議運に報告でよいか。
- ・梶澤委員：振り返りとして提出すればよい。
- ・鈴木委員：3番目はどうか。
- ・広瀬委員：議運で議論してもらってよいが、タブレット導入の経緯も踏まえるとペーパーレス化の考え方は議員が議論すべき。
- ・鈴木委員：議運に報告する。
- ・委員長：以上で、調査事項「オ」を終了する。
  
- ・委員長：調査事項「ア」について自由討議はないか？

- ・梶澤委員：アンケート実施の説明であり、結果について調査してはどうか。
- ・委員長：御意見を踏まえて取り進める。調査事項「ア」を終了する。
- ・委員長：調査事項「イ」について自由討議はないか？  
(意見なし)
- ・委員長：調査事項「イ」を終了する。
- ・委員長：調査事項「ウ」について自由討議はないか？
- ・広瀬委員：様々な意見があったが、委員会としてどうするかを考える必要がある。
- ・梶澤委員：多くの意見があり懸念事項もあったと考える。委員会として計画との整合性を含めた提言を行ってはどうか。
- ・立川委員：一つの施設に対する質疑としては多い。今後の整備への危惧もあった。委員会としての意思を伝える必要がある。2月に提案という答弁もあった。
- ・委員長：計画に則った進め方であるかなどを懸念する意見が多いように思う。委員会としての意思決定が必要ということではよろしいか。
- ・梶澤委員：早いほうがいいのではないか。この後すぐ提言を作成してはどうか。
- ・広瀬委員：課題がどの部分であるのか整理すべき。精査する必要がある。
- ・中田委員：論点整理をし、再度委員会の調査をしてはどうか。  
(異議なし)
- ・委員長：委員会としての論点整理を行い、再度調査することとする。
- ・委員長：調査事項「ウ」を終了する。
- ・委員長：調査事項「エ」について自由討議はないか？
- ・広瀬委員：適宜調査を継続してはどうか。
- ・委員長：御意見を踏まえて取り進める。調査事項「エ」を終了する。

### 3 その他

#### (1) 次回委員会の開催日程について

正副一任

#### (2) その他

- ・委員長：「その他」について委員からないか？ (なし)
- ・委員長：議長から「その他」でないか？ (なし)
- ・委員長：事務局からないか？ (なし)

以上をもって、総務経済常任委員会を終了する。

傍聴者数	一般者	0名	報道関係者	1名	議員	0名	合計	1名
------	-----	----	-------	----	----	----	----	----

令和4年1月20日

総務経済常任委員会委員長 鈴木健充